健康

県歯科医師会コラム

歯の長寿学 <37>

新垣 元洋

入れ歯を見直そう

不具合生じたら要治療

歯周病やむし歯、事故などで大事な歯を喪失したら、そのまま放置するのではなく、何らかの義歯を作らないと将来かみ合わせなどに不都合が生じてきます。欠けた部分を長い間放置しておくと、歯が移動したり、歯が伸びてきたりして、歯を作る段階で困難な症例となってしまいます。

抜けて無くなった歯の代わりは、他の歯ではできません。おのおの歯には、その位置で役割分担が決まっているのです。一本でも欠けたら歯科医師に相談してください。

欠損した部位に歯を作る方法の一つである義歯（入れ歯）について考えてみましょう。義歯には、部分入れ歯（局部義歯）と総入れ歯（総義歯）とがあり、自分の歯が一本でも残っていれば局部義歯で、一本も無い場合は総義歯となります。

天然の歯が無くなった部位に人工歯を植えて、上下顎のかみ合わせをさせ、食物をかむことや人と話をするなどの機能を回復させて、本来口腔の持っている働きをさせることにより、QOL（生活の質）を高め、より良い生活ができるようになります。

入れ歯は取り外しなので、煩わしいという半面、取り外してきれいに清掃することができ、いつでも清潔に保つことができるという利点もあります。どうしても義歯に慣れなくて装着できない方は、固定式のブリッジやインプラントなどの治療法もあるので、納得できる方法を選択することが大切です。

局部義歯は、クラスプ（ばね）の周りにプラークがつきやすく、総義歯は、義歯と粘膜との間に食べかすやプラークがたまりやすいので、毎食後、歯ブラシできれいに清掃します。

最後に、義歯安定剤について説明します。総義歯は、特に長く使用していると適合が悪くなり不具合が生じてきます。そこで義歯安定剤に頼ってしまうという方も多いかと思います。義歯安定剤には、粘着タイプと密着タイプとがあり、粘着タイプは、床裏装（粘膜に接する部分の改装）などの歯科医師の処置で及ばない部分を補うと考えれば使用してもかまいません。密着タイプはその使用により、部分的に強い圧が加わり急速な顎堤の吸収が起こることが報告されており、かみ合わせの変化する点や衛生上の問題もあります。

義歯の維持安定が悪くなったら、義歯粘着剤を用いる前にまず歯科医師の治療を受けてください。あくまでも粘着剤は、補助的な材料として扱わなければいけません。適合の良い義歯でおいしく、しっかりかんで、健康長寿を勝ち取りましょう。

（新垣歯科医院）